

年次レポート

奈良クラブメソッド部門

エコノメソッド



March 2024

ステイトメント



瀨田 満
奈良クラブ
代表取締役社長

『奈良クラブの長期的な発展への投資は、最も重要な戦略の一つです。2021年、私は強力で安定したクラブを、独自のアイデンティティを持って築くために、メソッド部門を設立することを決めました。3年間を振り返ってみると、我々が達成してきた結果と、クラブ全体のスタッフの働きに非常に満足しています。』

『メソッド部門は、奈良クラブを他のクラブと差別化し、独自のアイデンティティを創り出すを目指しています。これは決して小さな挑戦ではありません。選手、コーチ、家族、そしてクラブ全体のスタッフが同じビジョンを共有し、共通の目標に向かって働くことが必要です。我々の経験から、全ての要素が揃うことで、スポーツ面での成果が生まれ、組織全体が急速に成長していくことがわかっています。』



ダリオ・ロドリゲス
奈良クラブ
メソッド部門ダイレクター
エコノコーチ

アジェンダ

このレポートは、奈良クラブメソッド部門がエコノメソッドと共に遂行してきたすべての業務をまとめることを目的としています。レポートは3つのセクションに分かれています。最初のセクションでは、達成されたスポーツ面での結果が説明され、次にそれらのスポーツ面での結果を達成できた大きな要因である、奈良クラブのアイデンティティを統一するためのプロセスがどのように行われたか？が述べられています。

最後のセクションでは、2024-25シーズンにメソッド部門が取り組むことが紹介されており、これはこれまでのシーズンで開始されたすべてのプロセスを補完するものとなります。



パフォーマンスの向上とクラブの発展



成果を生んだプロセスの内容



来シーズン新たに取り組むこと

年次レポート



パフォーマンスの向上とクラブの発展

スポーツ面での成果とクラブの成長は、クラブを構成するすべてのメンバーのモチベーションとその献身に基づいています。メソッド部門においては、エコノメソッドの実績豊富な経験と知識を活用することを選択しました。ライセンスを持つエコノコーチであるダリオ・ロドリゲスが奈良でプロジェクトをリードしており、さらにはバルセロナに拠点を置くエコノエンジンというエコノメソッドの専門家グループ、そして同じくライセンスを持つエコノコーチであるフリアン・マリン・バサロがトップチームの監督を務めています。

これらの人々、知識、そして技術が共に機能することで、際立ったアイデンティティの創出とクラブの成長促進がなされています。

以下のスライドでは、メソッド部門が機能してから達成してきたさまざまなスポーツ面での成果を紹介します。

年次レポート



パフォーマンスの向上とクラブの発展 データ面

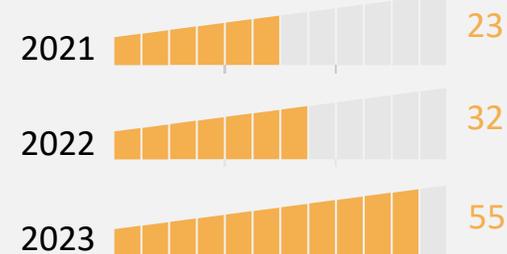
06

3年間で6回の
リーグ優勝 🏆

アカデミー
在籍選手数



ユース所属
選手数



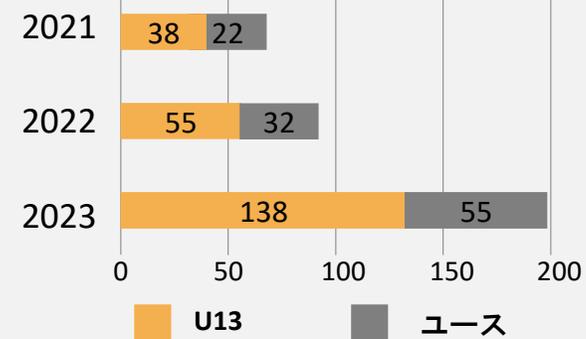
05

3年間で5回の
リーグ昇格 ↑

クラブ内の
指導者数



外部からの
入団希望者数
(セレクションのみ)



年次レポート



パフォーマンスの向上とクラブの発展

タイムライン

2021

- **U14**：奈良県2部リーグに昇格↑

2023

- **トップチーム**：J3初年度にして5位。クラブ史上最高順位
- **ユースA**：奈良県2部リーグ優勝🏆 奈良県1部リーグに昇格↑
(18戦18勝の全勝優勝)
- **ユースB**：奈良県3部リーグ優勝🏆 奈良県2部リーグに昇格↑
- **U13**：奈良県1部リーグ優勝🏆
- 3人のユース選手がトップチームの練習に頻繁に参加
- 2人のユース選手がトップチームの全てプレシーズンマッチに出場

2022

- **トップチーム**：JFL優勝🏆 J3昇格↑
- **ユースA**：奈良県3部リーグ優勝🏆 2部リーグに昇格↑
- **U15**：奈良県1部リーグ優勝🏆
- 2人のユース選手がトップチームの練習に頻繁に参加
- 2人のユース選手がトップチームのプレシーズンマッチに4試合出場

2024

- より良い未来はここから...

年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

スポーツ面での大きな成果は、クラブ全体を通して行われた多くの素晴らしい仕事の賜物だと考えています。
現在は以下の目標を達成するために戦略的に取り組んでいます。

- クラブ内の選手たちの学びや向上につながる高品質なサービスを提供する。
- 地域のナレッジハブ（知見が集まる場所）になる。
- 指導者を育成する。
- クラブ内の人間的価値を向上させる。
- さまざまなコミュニティとクラブの関係を構築する。

この後のスライドでは、これらの目標を達成するために過去数年間で実施されたプロセスの内容について詳細に説明しています。

年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標①：クラブ内の選手たちの学びや向上につながる高品質なサービスを提供する

2023年に実践したプロセス：

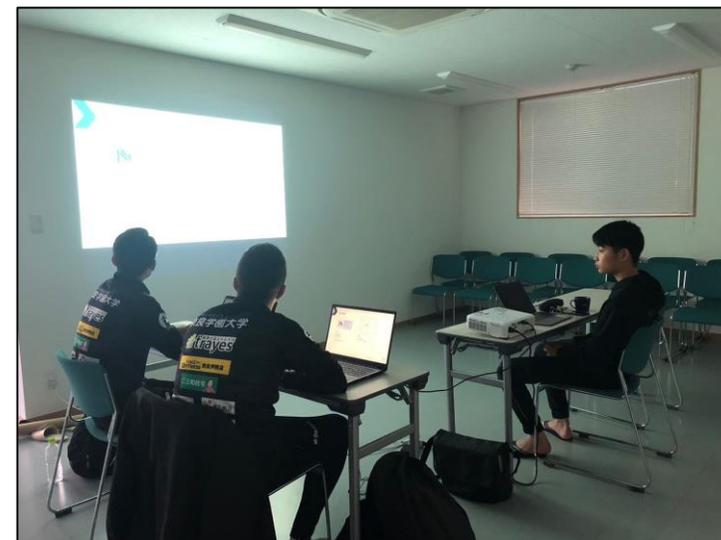
- 昨シーズンの経験をもとに、各年代での年間の指導カリキュラムの改善と適応。
- クラブの選ばれた選手に対するIPPP（個別選手パフォーマンスプログラム）を通じた個別フィードバック。バルセロナにあるエコノエンジンによって提供されるこのビデオ分析サービスは、ラ・リーガ、プレミアリーグ、セリエA、MLSなどの世界中のプロ選手に提供されているものです。



選ばれた選手は、試合映像をもとにIPPPを受けました。

選手たちには年間を通じて3回の個人セッションが行われ、その中で自分のプレーの分析映像やプロ選手の参考映像を見たり、自己評価シートの作成に取り組みます。

これらの取り組みは、選手の成長に大きく影響し、彼らの著しいパフォーマンス向上に貢献しました。



年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標①：クラブ内の選手たちの学びや向上につながる高品質なサービスを提供する

2023年に実践したプロセス：

名前：川井大地 実施年：2023 ポジション：攻撃的ミッドフィルダー
所属カテゴリ：ユースA 個人セッション：3回中2回目

分析内容
アクションにおける継続性

攻撃の第二波として厚みを作る

最近のプレーにおいて、この面は顕著に成長が見られた。
こういったプレーが良くなれば、ゴールの可能性が高くなる状況に陥るようになってきている。

しかしながら、既にエリアに連り着くことができるようになって、次の状況においてはまだ伸びしろがある。

- シュートが可能なゾーンに入る ▶
- 動きに方向転換を加える ▶
- FWが制出するフリーなスペースを見つける ▶
- アクティブな状態を保つ ▶

www.soccerservices.net

エコノエンジンでは、IPPP（個別選手パフォーマンスプログラム）を作成する際に、選手のビデオ映像を分析して、パフォーマンスを向上させるために必要な改善点を特定します。川井大地選手の場合、攻撃の組み立てと前進フェーズにおける熟練度については認識していましたが、フィニッシュエリア（ゾーン3）における改善の余地が大きいと仮定しました。

本人との話し合いの後、私たちの目標は彼が相手陣内にいるときに、チームを助ける能力を向上させ、より頻繁にペナルティエリアに到達しリスクを取ることであった。IPPPの完了後、ゲーム内での該当部分について、著しい進歩を観察することができました。川井大地選手は、ゴールとアシストの数、そしてフィールドの最終3分の1での存在感を大幅に増やすことができました。

年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標①：クラブ内の選手たちの学びや向上につながる高品質なサービスを提供する

2023年に実践したプロセス：

名前：中島 航 実施年：2024 ポジション：守備的ミッドフィルダー
所属カテゴリ：ユースA 個人セッション：3回中3回目

Informe Individual Kou Nakajima

分析内容

エリアの守備

サイドからのクロスの守備 ▶▶▶▶

ボランチはサイドからのクロスの状況では、多くの場合CBとして守備を行わなければならない。

こういったプレーにおいて、集中を切らす傾向にある。

改善するためには：

- エリアの数的状況を確認するべき
- 数的不利であれば、味方を助けに行く
- 数的同数で自分のゾーンに相手がいない時は、自分のゾーンに入る選手をマークする
- 数的同数で自分のゾーンに相手がいない場合は、エリアで数的有利を創り出す。
- 数的有利であれば、自分のゾーンに残る。

Partidos analizados

Vs Hodozu

Vs Girona

www.soccerservices.net

e|kono
Soccer Services
Barcelona S.L.

© 2023 All rights reserved by Soccer Services Barcelona S.L.

エコノエンジンの最初の分析では、中島航選手が攻撃の組み立ての際にチームを大きく助ける能力を持っていることがわかりました。特にチームが攻撃を行う際にバランスを提供することで重要な役割を果たしました。また、彼のスキルは、攻撃から守備への切り替えで多くのボールを奪ったり、相手チームのカウンターアタックを防いだりすることに貢献していました。

一方で、彼が相手のサイドからのクロスの守備を苦手としていることにも気づきました。本人と話をし、彼のIPPPを試合の中でのこの特定の側面に集中させることにしました。具体的には、センターバックを助けてエリア内で守備的な数的優位性を確保し、2列目から入ってくる相手を強くマークする、ということに取り組みました。IPPPの完了後、中島選手はこれらの側面で大きな能力を示し、何よりも守備時の強度において著しい変化を示しました。

年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標①：クラブ内の選手たちの学びや向上につながる高品質なサービスを提供する

2023年に実践したプロセス：

- ゲームモデルの中のさまざまなエピソードにおける、全カテゴリのプレーを分析：



このプロセスは指導者が自チームを定期的に分析する習慣づけをするのに役立ちます。これにより、彼らは分析する際の重要な側面を理解し、ゲームモデル内でより重要なコンセプトについての視点を得ることができます。

さらにこのプロセスにより、指導者間での共通理解を促進し、試合の中でのプレーの良し悪しを同じように解釈できるようになります。最終的にはこのプロセスが選手の成長を促進し、チームのパフォーマンスを向上させます。



年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標①：クラブ内の選手たちの学びや向上につながる高品質なサービスを提供する

2023年に実践したプロセス：

- 異なるカテゴリーの選手が参加する、相互試合分析アクティビティの実施。
例えば、U14の選手がU15の試合を観戦し、観察シートを使用して同じポジションでプレーする選手の特定のテーマについて分析します。（その逆も同様）その後、これらの選手は分析した内容について一緒に議論します。



選手たちは、さまざまな状況でどのようにプレーするかを理解するのに役立つ具体的なチーム戦術や個人戦術を学ぶことができます。

さらに、異なるカテゴリーの選手との交流により、彼らは新たな関係を築くことができ、それは我々のクラブのアイデンティティを強化します。



年次レポート

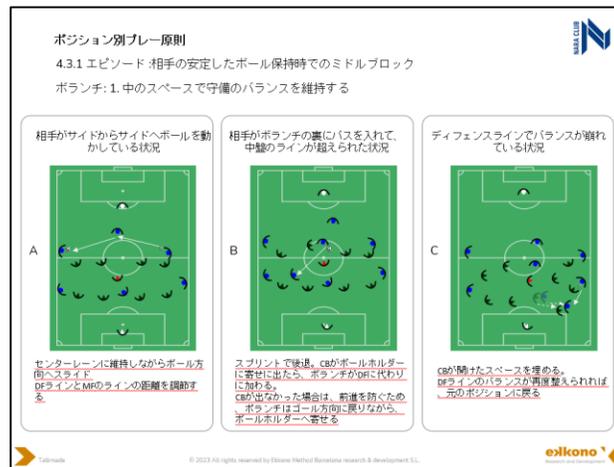


成果を生んだプロセスの内容

目標②③：クラブ内の指導者育成 / 関西でナレッジハブとしての機能を知られるようになる

2023年に実践したプロセス：

- クラブ全体のすべての指導者と定期的なミーティングが開催され、ゲームモデルを共同で構築しています。我々のゲームモデルは選手の年齢によって体系化され、クラブの選手たちのレベルに合わせて調整されています。他のクラブや欧州のビッグクラブの真似をすることはせず、我々は自分たちのゲームモデルを創り出し、すべての指導者の間で議論を行い、体系化されたハイクオリティな指導プログラムをしています。



このミーティングでは、試合のさまざまな局面でチームがどのように振る舞うべきか、試合中の特定の状況をチームと個々のポジションでどのように解決するかを決めることもしています。例えば、低い位置での守備ブロックに対してチームとして攻撃する方法、そのような状況で各ポジションの選手の個人の責任を決めています。

年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標②③：クラブ内の指導者育成 / 関西でナレッジハブとしての機能を知られるようになる

2023年に実践したプロセス：

- 指導者の試合中の行動、言動を定期的に分析：



このプロセスは、試合中の指導者の振る舞いを分析し、向上させるべき側面や改善または即座に止めるべき行動や言動を特定します。

各指導者は2023シーズン中に6回の分析、2回の個別フィードバックセッションを受け、行動分析レポートを通じて改善点が提示されました。



年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標②③：クラブ内の指導者育成 / 関西でナレッジハブとしての機能を知られるようになる

2023年に実践したプロセス：

- クラブの指導者がシーズン中のさまざまな、特に繊細さが必要とされる状況に置かれたときにより適切に対処するために、彼らとの実践的なケースの議論を行いました。例えば、チーム内で重要な選手が練習を欠席している場合、監督はそれでも彼を試合に出場させるべきかどうか？出場時間が長くない一部の選手が低いモチベーションで取り組んでいるときにどう振る舞うか？チームの成績が悪いとき、指導者はどのように振る舞うべきか？逆にチームの成績が非常に良い場合は？指導者がシーズン中に直面するさまざまな問題を適切に乗り越えるための議論のワークを行いました。
- 「ミラートレーニング」と呼ばれる相互学習の実施。例えば、U13の指導者が一つのメニューを作り、それをU15の指導者がチームで実施します。その後、両方の指導者がそのメニューについて議論し、ルールやコンセプトの理解を向上させ、クラブ全体のつながりと指導者の能力向上を促進します。
- メソッド部門から、指導者がトレーニングメニューの設計や構築を学ぶための講義を提供しました。奈良クラブのトレーニングガイドラインを設定し、クラブ内の指導者にそれを学習し、実践してもらいます。どのようなドリルを行う必要があるか？どのようにメニューを準備するか？選手にどのような情報を与える必要があるか？そしてトレーニング中にどのように情報を管理するか？を学びました。
- トレーニングや試合中に、指導者にサポートとガイダンスを提供し、必要に応じてフィードバックや手助けを行います。例えば、試合のハーフタイム中には、指導者に対して後半でのパフォーマンスを最適化する戦略をアドバイスし、改善すべき部分を特定してチームが必要としている調整を提案します。

年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標④：クラブの価値を実践する

2023年に実践したプロセス：

- 「オールドブラザー委員会」の設立。この委員会の主な目的は、クラブへの帰属意識を醸成することです。この目標を達成するために、メソッド部門では、トップチームまたはユース（U18）カテゴリーの選手とジュニアユース（U13、U14、U15）カテゴリーの選手をペアにし、毎月様々な活動に参加させます。例えば、ともに食事をしたり、試合のビデオ分析を行ったり、それぞれの「オールド（兄）」または「ヤング（弟）」ブラザーのトレーニングや試合に参加したりします。



年次レポート



成果を生んだプロセスの内容

目標⑤：さまざまなコミュニティとクラブの関係を構築する

2023年に実践したプロセス：

- クラブと地域コミュニティとの絆やつながりを強化するために、様々な組織を訪問し、教師、指導者、子供たち、選手との交流を図っています。各訪問の中で、両組織は奈良クラブで進行しているプロジェクトの内容や、各組織で子供たちが参加している教育プログラムについて情報交換を行いました。以下は主なパートナーシップです：
 - 東大寺学園高校サッカー部
 - 奈良県立五條高校サッカー部
 - 関西インターナショナルハイスクール（天王寺）
 - てんてんハウス ~現代版寺子屋~



年次レポート



来シーズン新たに取り組むこと

2021年の部門新設以来、メソッド部門は多くのエコノメソッドプロセスを実践してきました。来るべき2024-25シーズンでは、クラブ内ですでに実践してきたダイナミクスを習慣にした上で、さらにクラブのアイデンティティを強固にする新たなプロセスを組み込んでいきます。

これまで実践してきたプロセスとの一貫性を持たせるため、新たに実践されるプロセスも、先のスライドで紹介した5つの目標に関連したものとなります。

続くスライドでは、来シーズン以降メソッド部門が取り組んでいくプロセスの大枠を紹介していきます。

年次レポート



来シーズン新たに取り組むこと
プランニング

01 クラブ内の選手たちの学びや向上につながる高品質なサービスを提供する

- **ポジション別個別トレーニング：**

ポジション別個別トレーニングは、選手たちが自分のポジションでプレーするときに重要になるコンセプトやテクニックを、集中的にトレーニングし習得することができるツールです。このアプローチは選手のポジションにおける専門性を高め、ひいてはチーム全体のパフォーマンスを向上させることにつながります。

- **認知エリアの実装：**

特にエリートレベルでプレーをするとき、「認知」が非常に重要なものであると理解する必要があります。そしてクラブ内全てのチームでルーティンとして「認知トレーニング」を組み込んでいきます。「認知」に関連するコンセプトを専門的に理解した指導者が、学年を飛び越えて全てのチームで「認知トレーニング」を実践していきます。

- **試合中の継続的なサポート：**

メソッド部門ダイレクターが、全てのカテゴリにおいてハーフタイム時だけでなく試合中にも監督に対してリアルタイムでアドバイスを行います。この継続的なサポートによってチームの監督たちはいつでも頼れる存在がいると感じ、さらにそれがチームのパフォーマンスを高めることにつながります。

年次レポート



来シーズン新たに取り組むこと
プランニング

04 クラブの価値を実践する

- 『フェロシップ委員会』の設立：

選手、スタッフの幼少期の写真をナラディア内の掲示板に展示し、それが誰かを当てるゲームをします。また、数か月ごとにメソッド部門がその期間の誕生日の人々を祝うためのイベントを開催します。

- 『レクリエーション委員会』の設立：

クラブ全体（選手、家族、スタッフ）向けのレクリエーションイベントを企画します。例えば、ナラディアでのクラブ全体の食事会などです。目的は、お互いを知り合い、クラブ内の絆を強化し、クラブへの帰属意識を育むことです。

- 『バリューコーヒー』の開催：

クラブやその周辺コミュニティからさまざまなジャンルの人々を集めて、クラブで実践している価値観についてカジュアルに話し合い、それらに関係する人々の日常生活に取り入れる方法を考え、深めていきます。

年次レポート



来シーズン新たに取り組むこと
プランニング

05

さまざまなコミュニティとクラブの関係を構築する

- **社会的な関係性を築く:**

メソッド部門の目標は、奈良クラブと奈良県内の組織とのつながりを促進、強化することです。主な目標は、クラブを地域社会の一部に統合し、県内全体のコミュニティ参加の推進力となることです。

新しい組織とのパートナーシップを確立する際には、奈良クラブの取り組みを共有するだけでなく、彼らのニーズを聞き、両組織のプロジェクトを発展させるための方法を探求します。

今シーズンまで、私たちのパートナーシップは教育やスポーツに関連する組織とのものがほとんどでした。2024-25シーズンは、社会貢献に取り組んでいる組織との関係を構築することを目指しています。これにより、奈良クラブの地域への影響力を高めることができます。

年次レポート

奈良クラブメソッド部門

エコノメソッド

NARA CLUB



March 2024